

令和6年度 第2回地域密着型サービス運営推進会議 報告書

日時：令和6年6月21日（金）10：00～11：00

場所：くらすところ御はつ 事務所

参加者： （民生委員） （安心センター） （ご利用者様ご家族）

【管理者より】

- ・グループホームはサービス向上のため、運営推進委員会を2か月に1回開催しています。
 - ・6月上旬に笹巻作りを行いました。餅なので、のどに詰まると命にかかわるので、看護師見守りのもと食べていただきました。
- また、写真が趣味のご利用者様がおられ、島根中央信金 出雲西支店様に写真展として展示させていただいております。去年からさせていただいていますが、6月14日の信金の日に合わせて新しい写真を展示しています。
- ・5月の職員会議前に30分の勉強会では認知症について勉強しました。
 - ・5、6月の8件のヒヤリハットがあり、うち5件が転倒、2件が離設、1件が薬セット忘れでした。転倒は居室や和室での尻もちをつかれたヒヤリハットで、病院受診の必要はありませんでした。離接の2件のうち1件はご利用者様お二人だけで散歩に出かけられ、職員は気付かず。施設外近くでしたが、目の前の道路の横断歩道がないところを渡られたかもしれない。もう1件は周辺を見当たらなかったため、警察に通報し捜索してもらい、古志橋手前で発見し保護されました。離設2件ともご利用者様に怪我はありませんでした。

【安心センター 】

- ・待機者は何名おられますか？
- 現在15名です。部屋が空くと連絡させていただきますが、今すぐのご入居は考えておられなかったり、タイミングが合わないこともよくあることで、待機順番が後の方に連絡することもあります。
- ・離設の対策はどんなことをされていますか？他のグループホームで職員が少ない時間帯は施錠したり、玄関に大きな音が鳴るものを設置したりしているようですが、グループホームは家なので見張りや監視になってもいけないですし。
- 玄関のドアが開くとわかるように音が出るものを取りつけました。また、30分に1回職員が関わりを持たせていただき、表を作ってチェックしています。できる限り見張りや施

錠はしていません。警察にお世話になった離設では、後日すぐに職員で会議を行い支援方法の見直を話し合い、関わりの統一などを職員で周知しました。

- ・グループホームの理念が難しいと思いますが、家ではなくミニ施設になっているところも多いですが、こちらは家であると理念がしっかりしておられますね。

→おはつが介護の教育施設でもあるので、職員に理念が浸透しているのだと思います。

グループホームは認知症対応型共同生活介護なので、施設ではなく生活の場、つまり家として過していただいています。人が外に出るときは、買い物など何か目的があって外に出ます。今回の離設も利用者様は、馴染みの洋服屋さんに行きたかったと話しておられました。ご利用者様にとっては、誰にも監視されることなく、おひとりで自由に出かけられ、ワクワクした時間だったかもしれません。外に出られたことに職員が気付かなかったことは改善しないといけませんが、今まで同様カギやセンサーをつけることはしないです。とはいえ、ご家族様の意向も大切なので、センサーなど希望があればご家族様としっかり話し合って最善の方法を考えていきたいと思っています。

【民生委員

- ・どこの施設でも、理想と現実があると思います。こちらの理想(理念)はとても好感がもてますが、絶えず利用者をみているのは大変だと思います。職員に負担がかかっていないか心配です。ヒヤリハットが0にはならない。

→ヒヤリハットは起こるものだと思います。ヒヤリハット0ということはリスクをなくしている、つまり自由がないことになるかもしれません。ここではそうではなくて、いかにリスクを減らして今までの暮らしの継続ができればと思っています。ハインリッヒの法則で1件の大きな重大な事故の下には29件の事故があり、その下には300のヒヤリハットはあるといわれています。ここでも各ユニットで月100件近くのヒヤリハットが出ています。大きな事故を遠ざけるためにヒヤリハットは必要であると考えます。

職員はご利用者様の代弁者にならないといけない。我々のご利用者様と国から介護保険などお金をいただいているサービス業です。ご利用者様からありがとう、ごめんね、と言われてはいけないと思っています。私たち職員がご利用者様に感謝しなければいけない。

【ご家族さまより】

- ・利用者のことを近所の方は知っているのか？

→近所づきあいはまだまだなので、ご利用者様のことは知らないと思います。隣で畑をやっておられる方は顔を合わせれば挨拶はしているのでご存じかもしれません。

認知症について

【管理者より】

- ・この資料が正解ではなくて、認知症の病気や種類、対応の仕方はいろいろあり、今回お伝えすることでご家族の心の負担が少しでも軽くなっていたらと思います。

【ご家族様より】

- ・認知症は何も分からなくなる、私のことも分からなくなる病気だと思っていたが、いろいろな種類があるんだなあと思いました。
- ・今までは本人にきつく言ったりしていたが、今後は気を付けようと思いました。こちらに入居するまで3,4か月かかったが、本人よりここは病院じゃないと言われるが、どう思っているのか？こちらに住んでいることが分っているのか。
- 環境が変わると慣れるのが難しいです。病院は病気やけがを治すところですが、面会できず、行動制限もあり、認知症が進みやすいです。ここは面会制限がないので、色々忘れていく中でもご家族様に会えるのが認知症の進行を遅らせる要因の1つです。忘れていく順番として時間、場所、人の順で分からなくなります。認知症が進むと、ご家族は自分のことを忘れられてしまったと精神的につらくなると思われます。
- ・ここに入居前は心配でしたが、出身地が近い人と良く話していると聞いて安心しました。
- 入居前にご利用者様にお会いした時より、今はお話しされることが多く、ここに入居されてよかったと思っています。

【民生委員

】

- ・何でも話せる友達がいることは大事。不登校の子供を見ることがあるが私たち職員には話さず、友達とは話をする。子供が「うん、いいよ」と言ってくれない。いろいろ話かけるが話してもらえないことが多い。認知症の方のご家族も心のケアは大切で、相談できる場所があるといいと思います。

ご家族様より：高齢者とこどもの交流はあるのですか？

日野様：今はまだできていません。

【安心センター

】

- ・市民の方から相談を受けて話を聴くのですが、話を聴くだけで何も解決しないこともあるが、相談された方は安心されることが多いです。

【施設長より】

- ・ご家族は感情が入るので、介護することは難しいと思います。第3者に話を聴いてもらおうと安心すると思います。高齢者福祉だけでなく、障がい者福祉や児童の特別支援学級での勤務経験があるので、何でも話をしていただけるとお応えできると思います。

【管理者より】

- ・いつでもお茶しに来てください。

事務所に施設長や管理者がいるときはいつでもお話しできると思います。

※令和6年度 第3回運営推進委員会議開催の日程は下記の通り予定しています。

場所：くらすところ御はつ

日時：令和6年8月24日（金）10：00～11：00